

公害との闘い 継承へ

環境研究会 排ガス対策、冊子に

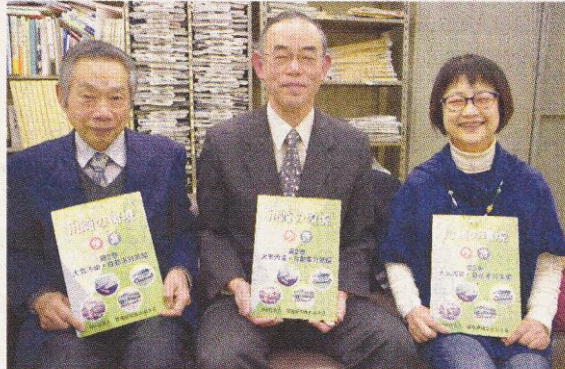
川崎の公害対策の歴史を後世に残そうとNPO法人「環境研究会かわさき」(井上俊明理事長、会員29人)は冊子「川崎の環境 今・昔 第2巻 大気汚染・自動車対策編」を発行した。同NPO法人は、川崎市で大気や水質の汚染調査などを担当した技術職OBらが2012年に結成。地域の環境問題を通年史にまとめた資料が少ないことから、14年に「大気編」を編さんし、主に工場から排出された硫黄酸化物や窒素酸化物、浮遊粒子状物質の3物質に関わる対策についてまとめた。

今回は、自動車排出ガス対策についてまとめた。工場からの排出物質が環境目

標値を達成した後の1980年代からの歴史などで、ディーゼル車や低公害車の導入などについて説明している。

井上理事長は「環境汚染など公害問題は、ある程度改善されてく

ると過去のこのととして忘れ去られ、資料も散逸してしまふ。環境汚染の問題はそれを改善していく経過が重要。次の世代を担う若い人たちにこの経過を継承してもらえれば」とし、「環境



「川崎の環境 今・昔」第2巻をまとめたNPO法人「環境研究会かわさき」のメンバー

教育などで活用してもらいたい」と話している。

A4判カラー刷り40ページ。

300部作成し、市内の図書館や高校、大学などへ配布した。今後は「水質環境編」の編さんに取り組みという。冊子の問い合わせは、電子メール (kanken_kawa@yahoo.co.jp) へ。

(滝村 誠)